



ナンバ 冷凍冷蔵設備のIoT化を FOMA 2025で提案

冷凍冷蔵設備を取り扱っているナンバ(新潟県長岡市、☎0258・42・2211)は、6月10日から東京ビッグサイトで開催されたFOMAJAPAN2025に出展

し、冷凍冷蔵設備のIoT化を実現する「フロンキーパー」や冷凍・冷蔵システム用「KE2省エネコントローラ」を提案した。

従来、フロン漏えいが発生した場合、冷凍設備の冷凍能力低下や電気料金増加、高まる故障リスクといった課題を抱えていた。同社が独自に開発したフロンキーパーは、冷凍設備のフロン量を24時

間監視し、漏えい量を約10%の段階で早期に検知できるシステムだ。これにより漏えい量の削減、温度異常発生前の修理対応、冷凍機の安定稼働を可能としている。

フロンキーパーを取り付けることによって、フラッシュガス発生率、外気温度、液冷媒温度、吐出温度、吸入温度、電力量(電流)などさまざまなデータを24時間収集・測定・監視し、独自のシステムで漏えいを判断する。収集したデータは10分ごとに自動でサーバーへ送信され、ウェ

ブで一括管理できる。フロンキーパーの特徴をまとめると「コスト削減」「漏えい削減」「安定稼働」が挙げられる。これらの点が評価され、今年5月にはイオンデパートに300台以上を販売した。

加えて、フロンキーパーの展開は国内だけに留まらず、タイの現地企業と販売契約を締結。タイの輸出を足掛かりに、海外での販売活動を本格化している。難波俊輔代表取締役社長は、7月にもタイで開かれる国連主催

の南アジアへ向けたセミナーに登壇するなど、環境分野での国際貢献を積極的に行っている。また同社では、9月10日から東京ビッグサイトで開催される国際物流総合展2025への出展も控えている。